

2023年(令和5年)8月31日(木曜日)



日立ソリューションズ・クリエイト

南 章一 社長



SI(システム構築)とソリューションサービスの2軸で事業を進める中、2022年度からの中期経営計画は「ワークスタイルイノベーション」「モダンイズイノベーション」「セキュリティイノベーション」「サブライチエーションイノベーション」「ペイメントイノベーション」の五つを重点事業として掲げ取り組んできた。

当社中計は3年後の24年度を最終としながらも5年後の在るべき姿を見据えて計画した。初年度は金融や

電力のSIが順調に伸びてきた一方、ソリューションは分野によって伸びに濃淡が出た。全体では順調だが23年度は、SIは品質とマネジメント力を強化しながら生産性を高めたい。ソリューションは動きの速い世の中に合わせて柔軟に取り組む必要がある。重点5事業も横投資する分野

コロナ後の生活がスタートしている中で働き方も出社とリモートとのハイブリッド型になってきた。これまでに以上にコミュニケーションの改善が求められるため仮想オフィスの活用経験を生かした提案をしていきたい。セキュリティは需要が底堅い領域だ。当社はセキュリティ専

門事業を移管した。この事業は、マニュアル制作や翻訳などのテクニカルドキュメンテーションと呼ぶ領域の支援や、ユーザーインターフェースやユーザーエクスペリエンスの領域を支援する。当社にない事業領域になるため、当社事業と連携しシナジー(相乗効果)が出せないか検討してい

SIの生産性を高める

品質とマネジメント力強化で

を見極めていく。

任技術者(ホワイトハッカー)による高度な

足元の市場をみても

支援ができる体制を整

応は増え、モダンイズ

えている。セキュリティ

はSIと連動しながら

ー診断をはじめトレ

進むとみている。ワー

ニングや研修もでき

クスタイルは、マイク

る。企業のセキュリティ

ロソフトの「チーム

ー部門強化に向けた

ズ」を活用できる独自

支援も進めていく。

開発の「仮想オフィス

今年4月、日立イン

を本格的に展開してき

フォメーションエンジ

た。社内でも活用し

ニアリングからテクニ

ウハウを横んでいる。

カルコミュニケーション

を取り組んでいく。

し、SX(サステナビ

リティ・トランスフォーメーション)にも

販売力を活用しながら、企業の新たな課題解決ができる」と期待している。

今年度は引き続きSIとソリューションの両面で成長を目指し、特にソリューションは独自性を出していきたい。日立ソリューションズとの連携も強化

し、SX(サステナビリティ・トランスフォーメーション)にも

取り組んでいく。

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。